

編者・執筆者紹介

(① 現職・専攻, ② ひとことメッセージ)

【編 者】

上田 道明 (うへだ みちあき) はじめに・第7章・第11章・第12章・第13章

- ① 佛教大学社会学部教授, 政治学・地方自治論
- ② 第7章を担当しました。インターネットが社会の分断を進めているという議論がありますが, 実証研究によれば「分断が進んでいるのは(若年層ではなく)中高年世代」とのこと。直感や思い込みをひっくり返してくれるところに学問の面白さがあります。この本はどうでしたでしょうか?

【執筆者】

栗本 裕見 (くりもと ゆみ) 第1章・第2章・第10章・第18章3節, 5節・おわりに

- ① 大阪公立大学都市科学・防災研究センター客員研究員, 地域自治・NPO論
- ② 今まで, 地域のコミュニティやNPOなどで頑張る人をたずね歩いてきたのですが, コロナ禍のせいで動けない状況が続きました。久しぶりに地域を訪れると, 「いろいろ制約はあるけどできることを」と活動を見直し, バージョンアップしていたのが印象的でした。「ピンチをチャンスに」のタネは意外に近くにあるのかも。

桑原 武志 (くわはら たけし)

第3章・第8章

- ① 大阪経済大学経済学部教授, 都市政治経済・中小企業政策
- ② 最近, 多発する自然災害に加え, ロシアのウクライナ侵攻に始まる戦争が起きて, わたしたちが生活する社会も変化を余儀なくされています。そういうときだからこそ, 批判的思考を忘れず, 足元の地方自治について学んで, 自分自身の考えを持ちましょう。

大西 弘子 (おおにし ひろこ)

第4章・第9章・第17章

- ① 神戸医療未来大学教授, 政治学・民主政論
- ② このテキストは, 執筆者が原稿を持ち寄って, 「ここが説明不足」「これは過度な一般化」などと注文をつけあい, 議論しながらできあがりました。みなさんの手に届いた今からは, みなさんにも議論に参加してもらえれば(?) 嬉しいです。テキストの内容について検索したり, 反論を考えたりして, ぜひ積極的なツッコミをお願いします。

- ① 大阪経済大学経済学部准教授, 行政学・地方自治論
- ② 地方自治は、地域を暮らしやすい場所にするためのリアルな営み。各章の事例をきっかけに、地域の課題をどのように解決し、未来を創っていくか考えてみてほしい。

- ① 下関市立大学経済学部教授, 行政学・地方自治論
- ② 国の政府は、国民や地域に無理を押しつけることがあります。私は環境や地域文化の豊かな沖縄が好きですが、沖縄の自治体は国による「美ら海」埋め立て工事に対し抑制機能を発揮しようと悪戦苦闘しています。わたしたちが他地域の自治の取り組みにもっと関心を持つことは、日本社会を少し優しくする方法の1つだと思っています。

- ① 立命館大学政策科学部教授, 財政学・地方財政論
- ② 財政は目的ではなく、手段にすぎません。しかし、「善い地域」、「善い自治体」を実現するためには財政の役割が決定的に重要です。本書が、みなさんの自治体財政への関心を深めるきっかけになれば望外の喜びです。